

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 21 日

所属	基盤教育機構	職名	助教	氏名	久保田俊介
研究課題	業績連動給与が及ぼす企業への影響				
研究キーワード	企業価値向上、スチュワードシップ・コード	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	9.産業と技術革新の基盤をつくろう	17.パートナーシップで目標を達成しよう	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>昨年度の研究成果として、企業価値向上と業績連動給与の重要性を指摘した。実際、サステナブル社会が企業経営に対し、企業価値向上の概念をこれまでと異なった短期的な視点から長期的な視点へと変容させた。だからこそ、今年度は、長期的な企業価値向上を目指す上で、注目度が高まっているスチュワードシップ・コード（以下、「SS コード」という）の研究を行った。</p> <p>そもそも SS コードは、受入れ表明をした機関投資家が遵守する原則であり、ハードローではなく、ソフトローとして運用されている。このハードローからソフトローへの視点の変奏は、企業価値に対する短期的視点から長期的視点へ連動するものであり、これこそがサステナブル社会の結実ともいえよう。その意味でサステナブル社会を牽引した英国のコードを参考に策定され、2017 年及び 2020 年に改訂が行われた。当初のわが国の SS コードは英国のコードと同様の原則であったが、改訂と共にわが国独自のコードに変化していることが研究により明らかになった。また、英国のコードも 2020 年に改訂が行われてきており、ソフトローよりも拘束力の強いハードローに舵を切ったように検討できた。ソフトローからハードローへの転換は、将来、わが国の SS コードのあり方に大きな影響を及ぼすことは間違いない。従って、今後のわが国の SS コードは、英国のコードに追従するのかそれともわが国独自のコードに変更されていくのかが私の研究の核心となる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>「日本版スチュワードシップ・コードの史的変遷と今後の可能性」久保田俊介、単著、『千葉商大論叢』、第 59 巻第 2 号、pp. 255-272、2021 年 11 月</p> <p>「職業会計人と大学生の会計教育に対する認識の差異」久保田俊介、単著、『会計教育研究』、第 8 巻、pp. 18-23、2022 年 3 月</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「スチュワードシップ・コードと実質的エンゲージメント」日本中小企業・ベンチャービジネスコンソーシアム、2021年5月、オンライン</p> <p>3. 主な経費</p> <p>関連書籍、消耗品、文房具の購入。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>					

(本文は2ページ以内にまとめること)